



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第97回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

### 2018年まとめ⑤打者編(その2)-打者の捕手への妨害

- 前回(第96回)の【課題2「打者が捕手の守備を妨害する」】の事例について、ケーススタディーで詳しく見ていきましょう。

#### 【事例1】

ノーアウト走者1塁。1B-1Sで、1塁走者がスタート。投球は外角へ投じられ、打者は空振りしたが、その際、捕手の2塁への送球を妨害した(2塁はセーフとなった)。  
このプレイの判定はどうなるのでしょうか。また、このプレイを基に、様々なケースを考えてみましょう。

このプレイは、いわゆる攻撃時のヒットエンドランでのシーンにおいて、高校野球の試合の中でもよく起こりうる打者による守備妨害です。

このケースでは、打者が捕手の2塁への送球を妨げたので、打者に対して守備妨害を適用し、打者アウト、2塁へ到達した走者を1塁へ戻し、ワンアウト1塁で試合を再開します。(6.03(a)(3))

もし、捕手が2塁へ送球し、1塁走者がアウトになれば妨害はなかったものとみなされ、打者はアウトになりません。  
6.03(a)(3)【注2】(後述する妨害プレイのケースで比較検証します。)

#### 【事例2】

事例1のケースで、カウントが3B-2Sであった場合は、どうなるでしょう。

打者は、2ストライクの後、空振り三振でアウトになっています。(5.09(a)(3))

この場合は、アウトになった打者が捕手の送球を妨害していますので、守備の対象である1塁走者をアウトにし、ツーアウト無走者で試合を再開します。(6.01(a)(5))

それでは、走者3塁で盗塁またはスクイズを試みたとき、打者が捕手を妨害したとしたらどうなるでしょう。

#### 【事例3】

ノーアウト走者3塁。1B-1Sで3塁走者はスタートを切り、スクイズを試みたが、打者は空振りの後に捕手の守備を妨害した。

この場合は、守備の対象である3塁走者が守備妨害でアウトとなり、ワンアウト無走者、カウント1B-2Sで試合を再開します。(5.09(b)(8)、6.03(a)、【6.03a3・4】)

【事例1】と類似したケースですが、走者3塁、盗塁またはスクイズの場合で、打者による捕手への妨害があったときは、打者をアウトにせず、守備の対象である3塁走者がアウトになります。取り扱いが異なりますので、この機会に理解しておきましょう。 **【打者の守備妨害】**



#### 【事例4】

【事例3】を踏まえて、次のケースを考えてみましょう。

ノーアウト走者3塁。1B-2Sで3塁走者はスタートを切り、スクイズを試みたが、バッテリーはスクイズを外した。打者は、懸命にバットを出したが空振り(三振)となり、外した投球は地面に触れ、ワンバウンドで捕手は捕球した。その後、打者は、3塁からの走者に対する捕手の守備を妨害した。

このケースにおいて、注目すべき点は、打者が投球に対して空振りしており、第3ストライクを宣告されましたが、その投球が地面に触れ、捕手が正規に捕球していないことです(【事例3】と異なる点です)。

打者は、第3ストライクを宣告されているものの、アウトとなっていない(いわゆる振り逃げの状態)ため、「打者走者」となっており、その打者走者が捕手の守備を妨害したことになります。

したがって、このケースでは、打者走者をアウトにするとともに、3塁走者を3塁へ戻し、ワンアウト走者3塁で試合を再開します。(6.01(a)(1))【注】①【打者走者の守備妨害】

もし、捕手が打者走者に妨害されながらも3塁へ送球し、3塁走者をアウトにしていたらどうなるのでしょうか。

【事例1】の解説のように3塁走者のアウトを認め、打者走者の妨害はなかったものとみなすのでしょうか。

⇒ このケースは、打者走者の妨害であり、【事例1】で解説した 6.03(a)(3)【注2】のアウトになれば妨害はなかったものとみなす処置は、打者の妨害のときに適用されるものであることから、この場合は、妨害した打者走者をアウトにして、走者を投球当時の塁(3塁)へ戻すことになります(妨害が生じた時点でボールデッドとなります)。

#### 【事例5】

更に、【事例4】のケースで、ワンアウト走者1、3塁であった場合は、どうなるでしょう。

この場合は、【事例4】と同じく打者は、空振りにより、第3ストライクの宣告を受けています。事例4と違う点としては、ワンアウトで走者が1塁にいるため、打者は空振り三振でアウトになります。(5.09(a)(3))

したがって、【事例2】と同様にアウトになった打者が捕手の守備を妨害していますので、守備の対象である3塁走者をアウトにし、スリーアウトで攻守交代となります。

最後にもう一つ…関連した事例を挙げてみます。(反則打球)

#### 【事例6】

【事例4】のケースで、打者はスクイズを試み、打球はフェアボールとなった。

しかし、打球がバットに触れたとき、打者の片足がバッタースボックスから完全に出ていた。捕手が打球を捕球したときには、3塁走者は、すでに本塁に到達していた。このケースは…？

①打者は、反則行為でアウトになり、②本塁へ到達した3塁走者を3塁へ戻し、ワンアウト3塁で試合を再開します。ルールブックには下のよう記載されています。

①打者: (6.03(a)(1))

次の場合、打者は反則行為でアウトになる。

(1) 打者が片足または両足を完全にバッタースボックスの外に置いて打った場合。

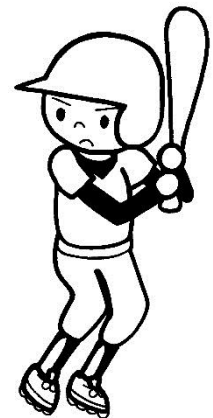
②走者: (5.06(c)(4))

反則打球の場合 — 各走者は戻る。

※これまで見てきたように、捕手に対する妨害であっても、

- ・妨害した選手が、打者であるか打者走者であるか、
- ・妨害した打者がすでにアウトになっているか、
- ・アウトカウント、ボールカウント、走者の位置 など

条件によって適用するルールが何通りかありますので、場面に応じた正しい規則を理解しましょう。



イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科  
上: 大澤 渚 さん (2年)  
下: 重見綾乃 さん (2年)